2018年特別号　日本メノナイトブレザレン教団　伝道委員会　第特-６号

伝道ニュース　≪特別号≫

開拓伝道のビジョンを語る【12】

酒井　啓師：土山キリスト教会
（伝道委員会：オブザーバー）

福音を届けるということに関して、最近考えさせられるきっかけを与えてくれた２人のことを分かち合わせていただこうと思います。

1人目は、先日 35 歳という若さでこの世を去った中学校の同級生です。
彼は私が初めて教会に誘った友人でした。彼は高校時代に友達を引き連れて、石橋教会の教会学校に1年近く通い続け、高校キャンプにも数回参加してくれました。でも、彼が徐々に教会から離れて言った時、自分は何も引き止める言葉を持っていませんでした。教会に連れてくるのが精一杯で、自分は福音の豊かさを分かち合うとはどうゆうことなのかわかっていなかったのだと思います。彼とは一番仲が良かっただけに、何となく気まずさが残り、連絡を取り合うことがなくなっていきました。その後も、いつか腹を割って、当時を振り返りつつ話さないといけないと思いながら、時間だけが経ち、結局ちゃんと話すことなく、彼の訃報を聞いたのです。東京で行われた彼の葬儀で、高校生キャンプに一緒に参加していた別の同級生が当時を振り返り、亡くなった同級生が涙を流しながら最終日の証会で証しをしていたことを思い出すと懐かしがりながら話してくれました。不甲斐無い友であった自分を超えて、神が確かに働いてくださっていることを思い起こす時となりました。　しかし、同時に“自分はそのように働いてくださる神をもっと信頼し、福音を豊かに分かち合っていかなければならないのでは？”
“自分勝手に生きるために、神と距離をとっていきているのではないか？”
常に神によって満たされることを願わず、勝手に折り合いを付けようとしている自分に気づかされました。既存教会、開拓教会に関わらず、必要なのは神に対する信頼だけで、問題なのは、私たちの福音宣教に対する情熱の欠如ではないかと思わされる出来事でした。

２人目は、神学生時代に共に過ごした李英美宣教師です。
私はどちらかといえば、目の前の人を重視するタイプなのですが、彼女は本当に必要があるなら、探し出してでも仕えていくタイプでした。個性の部分もあるとは思いますが、彼女のその姿勢がイエスの宣教の姿に重なるような思いがしました。それぞれ担う役割は異なりますが、ただ自分の視野の範囲だけではなく、神がなさろうとしておられることに対する視野をいつも持つべきだということだと思います。

彼女はご主人の仕事で、この6月にインドに行かれるそうです。そこでも、さらに彼女のアンテナが豊かに用いられることを祈っています。

一人一人が福音宣教に情熱を持ち、神の働きに対してアンテナの感度を高め、そしてその思いを互いに分かち合う時、“私”だけではない、“私たち”としての応答もまた見えてきます。そうした中で、開拓伝道の働きは教団として、欠かすことのできない大切な使命の1つとして見出されていくのではないでしょうか。

キャメロン・マクナブ兄（23 歳）
大学３年を終えたとことで、秋からマニトバ大学の教育学部に入ります。授業外の多くの時間は、大自然の中で過ごすかホッケーをしています。MB フォート・ギャリー教会の若者たちと活動的に関わっています。人が共同体、奉仕、弟子訓練を通してキリストのために生きる中で成長するのを見るのがとても好きです。これまで、ペムビナ谷バイブル・キャンプやマニトバ州北部にあるクロス湖ファースト・ネイション保護地区への宣教旅行、タイへのビジョン・トリップなどの宣教の働きを体験しました。この夏、アクションを通して神様が私に与えてくださる機会を楽しみにしています。（マニトバ州マニトバ在住　チームリーダー）

アンナ・テーブス姉（18 歳）
高校を卒業したところです。いつか日本へ行き、日本語がペラペラに話せるようになることをずっと夢見てきました。11 歳の時からドラムを弾いていて教会のワーシップチームで演奏しています。大の読書好きで絵を描くことも大好きです。旅行と他の文化を学ぶことにも興味があり、この夏に日本にアクションプログラムを通していくことをとても楽しみにしています。（マニトバ州ダウフィン在住）

「伝道支援ンキャラバン」報告

３月 24 日（土）13 時 30 分～16 時大阪セントラルグレースチャペルの自主活動として、教会員の須見啓子姉が地域の子どもたちを対象に『英語で遊ぼう！』というイースターイベントを開催しました。
伝道委員会の人的支援要請によるゲストとして土山キリスト教会の多井作猛兄・濱口剛正兄の『City Lights』のお二人と尼崎キリスト教会から宮野多恵子姉が参加されました。

＊編集後記＊・皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトブレザレン教団　伝道委員会
〒563-0032　大阪府池田市石橋3丁目7－15　TEL：072-762-5731
発行者：田畑雅紀（伝道委員長）　　編集者：河野和雄（広報担当）

「個人伝道一日セミナー」報告

田畑　雅紀師
伝道委員会委員長
（いずみホープチャペル）

2018年5月15日（火）10時～17時、尼崎キリスト教会2階の礼拝堂で開催しました。牧師8名、信徒8名が参加し、EE Japan（Evangelism Explosion:爆発伝道）代表の山中知義牧師（京都インターナショナル教会主任牧師）より、個人伝道のワークショップを受けました。以下に、内容の一部を紹介します。

☆福音の「ハンド・プリゼンテーション」

これは、誰にでも簡単に習得できて、分かち合うことが楽しくて、忘れることがない伝道ツールです。5本の指を使って福音を順序よく伝えます。第1が「恵み」で、親指で表します。「天国は、無償のプレゼントです（ローマ6:23）。それは努力の報いとして獲得できるものではありません（エペソ2:8－9）。」　第2が「人」で、人差し指で表します。「人間は、罪人です（ローマ3:23）。人間は自らを救うことができません（マタイ5:48）。」　第3が「神」で、中指で表します。「神様は、憐れみ深い方ですので、ゆえに私たちを裁きたくありません（1ヨハネ4:8）。神様は、正義なる方ですので、私たちの罪を裁かなければなりません（出エジプト34:7）。」　第4が「キリスト」で、薬指で表します。「キリストは、神であり人である方です（ヨハネ1:1,14）。そしてキリストは、十字架の上で死なれ、死からよみがえられ、私たちの罪の代価を支払い、天国に私たちのための場所を買い取ってくださいました（イザヤ53:6）。」　第5が「信仰」で、小指で表します。「信仰とは、単なる頭の知識ではありません（ヤコブ2:19）。あるいは一時的な信仰でもありません。人を救いに至らせる、まことの信仰とは、イエス・キリストにのみ救いの信頼を置くことです（使徒16:31）。」

2018年度伝道委員会新メンバー紹介

上段左側より
中田明義兄（会計:武庫川）
酒井　啓師（新任:オブザーバー/土山）
中島若樹師（JMS 能勢:川）
下段左側より
河野和雄兄（書記/広報:堺中央）
田畑雅紀師（委員長:いずみ）
藤井義生師（副委員長:長瀬）

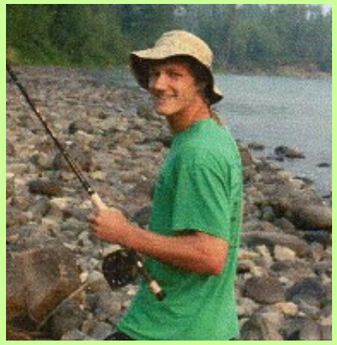
2018年度アクションチームの来日　！！

中島若樹師：伝道委員会ＪＭＳ
アクションチーム担当

この夏も北米 MB ミッションからアクションチームの 5 名が日本に来ます。7 月 8 日～8 月 6 日の約 1ヵ月間に日本の5つの MB 教会と協力し奉仕する予定です。伝道委員会は MB ミッションの協力により日本 MB 教会の伝道活動の助けとしてアクションチームを招いています。

ライアム・ブル兄（20 歳）
現在、レッドリバー大学でデジタルメディアをフルタイムで学んでいて、ミーティング・プレース教会の管理のアルバイトをしています。創造的な文書を書くこと、3D 模型や映像、ビデオゲーム、アニメや漫画、日本文化や日本語、そして、絵を描くことや写真にも興味があります。（マニトバ州ウィニペグ在住　チームリーダー）

イライザ・ラスコウスキ姉（19 歳）
社会福祉学科の必修科目のクラスを終えたところです。学校が大好きで、新しいことを学ぶこと、ノートをとること、そして特に新しい人と出会うことが大好きです。14 年間ダンスをしてきた経験から、ダンスが彼女の個性でもありました。この 5 年間は毎年夏にカデシュ・キャンプ場と、地元のユースグループで事務の仕事のボランティアをしています。最近、宣教の働きに見るように召されていると感じ、とてもワクワクしています。（サスカチュアワン州サスカトゥーン在住）



マイカ・ボグド兄（18 歳）
電気学の専門学校の 1 年目を終えようとしています。現在、ブリティッシュコロンビア州のウイリアムズレイクの両親と共に暮らしています。教科課程の一環として町で短期間の鉱山採掘の仕事をした後に、町で見習いの働きを探しましたが見つけられませんでした。今は臨時的な仕事をしていて、時々はく製のお店で働いています。（ブリティッシュコロンビア州ウィリアム・レイク在住）